

「特発性血小板減少性紫斑病の初発時骨髄検査における巨核球数による病態・治療反応性に対する影響に関する後方視的研究」のお知らせとお願い

特発性血小板減少性紫斑病（ITP）は、血小板破壊亢進と骨髄における血小板産生障害が病態とされ、血小板を産生する骨髄中の巨核球数は正常から増加しているとされています。そして、ITP の診断のために初診時に骨髄検査がおこなわれていました。しかし、初診時の骨髄中の巨核球数が ITP の病態や治療反応性にどのように影響を与えるかを検討した報告はありません。本研究では、巨核球数の影響を検討します。

研究のために患者さんから検体を採取したり投薬をしたりすることはなく、これまでの外来及び入院治療での既存資料等のみを用いる後方視的研究ですので、経済的、身体的な負担はありません。

患者さんの臨床データは ID 等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化によって管理され、その他通常の診療と同様にプライバシーが保護されます。もし 2005 年 1 月から 2015 年 12 月に当院で ITP と診断された方で、ご自分の臨床データを研究に使わないで欲しいというご希望があれば、下記の連絡先までご連絡をいただけますようお願いいたします。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、当院における診療には何の影響もなく、いかなる意味においても不利益を被ることはありません。

なお、本研究は防衛医科大学校長の承認及び防衛医科大学校倫理委員会の審査を受けています。

連絡先：木村 文彦

診療科：防衛医科大学校病院血液内科

連絡先：埼玉県所沢市並木 3-2

TEL 04-2995-1617